



# 平井MJだより

平井民生児童だより 第25号

発行日：令和4年5月

発行者：平井地区民生委員・児童委員協議会 会長 那須和夫

**今だからこそ 出会い・支え合い！  
孤（子）育てにならない社会を！**

平井学区民生児童委員 野崎博子

「此つたらいけんよ、アツくんのことを」と、行きつけの飲み屋の女将さんに言われ、「妻を亡くしたヤス。子どものおねしょは涙と同じだ。一人息子の寝顔をじっと見つめ頬を軽く撫でて我慢できずに抱きしめた。岡山県出身の作家重松清の小説「とんび」の一場面。岡山県と言えば、今から100年前、四聖人と呼ばれた「石井十次」「留岡幸助」「山室軍平」「アリス・ペティ・アダムス」の方々が救済事業に尽力されたと聞きます。彼らの活動に刺激されやがて行政を中心とする組織的な取り組みが県下に広がりました。ここ岡山県は、民生委員制度の発祥の地です。

早春、岡山市で当時5歳の女兒が虐待を受けたのに低酸素脳症で亡くなった事件がありました。母親と交際相手の男性が繰り返し暴行していた事実を周囲の方々は知っていたにも拘らず幼い命は救えませんでした。このような痛ましい事件がなぜ起きるのか、どのようにすれば防げたのか、一人一人が大切な命、人を大切にする社会であってほしいと願わざにはいられません。

「人を大切にする学習」を22年わたり実践しているというある小学校の新聞記事を目にしました。

人とよりよく関わるためのスキルを6年間系統的に学ぶ「心を育てるプログラム」を導入し、子どもたちの成長は、保護者や地域の意識変容も促しているといった内容でした。「とんび」のヤスは、頼れる幼馴染や同僚、理解者がたくさんいてその助けを借りながら子育てをしますが、最近は家族・地域間の相互扶助という意識が薄れ、またコロナの影響もありどんどん個人が孤立していく社会になっています。近所でも会話を交わすこともなく人と人が関わる町内行事も減りひっそりしています。こんな状況の中でも、困っている人や悩んでいる人の手助けをしたいとわが平井学区も愛育委員・婦人部員・民生児童委員等が活動していま

す。そして、学区にお住まいの多くの方々の「おやつ」と感じられた気分になります。今だからこそ、家庭・学校・地域や関係機関が縦にも横にもつながりあって大切な命が守られます。よりよい暮らしができるることを願います。先人たちが築いた福祉制度の発祥の地、岡山県人として、また、お節介焼きの民生委員の一人として、出会い・支え合いをモットーに今日も「おはようございます」の掛けをします。

## 歴史ある オアシス運動

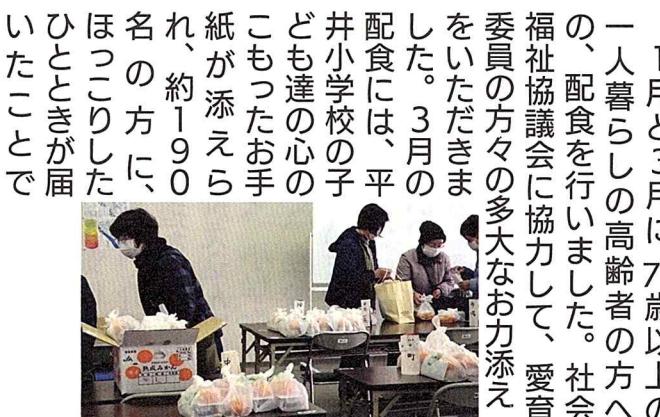
## ふれあい配食



### 岡田中副会長 岡山県表彰受賞！

多年にわたり、民生児童委員として地域の福祉の増進に尽力された功績に対し、田中千代副会長が岡山県から表彰を受けられました。これ益々ご活躍ください。

「おはよう・しつれい・すすみません」平井学区で、実施され成績は、保護者や地域の意識変容も促しているといった内容でした。「とんび」のヤスは、頼れる幼馴染や同僚、理解者がたくさんいてその助けを借りながら子育てをしますが、最近は家族・地域間の相互扶助という意識が薄れ、またコロナの影響もありどんどん個人が孤立していく社会になっています。近所でも会話を交わすこともなく人と人が関わる町内行事も減りひっそりしています。こんな状況の中でも、困っている人や悩んでいる人の手助けをしたいとわが平井学区も愛育委員・婦人部員・民生児童委員等が活動していま



### 新人です！ よろしくお願ひします

市場担当 矢田 重子

今まで培った知識を生かし、地域の人々の身近な相談相手になり、問題に向き合いで必要な支援やサービスの「つなぎ役」として、微力ながら活動したいと思っています。



# 平井学区の活動を支える「縁の下の力持ちさん」

平井学区の様々なニーズをタイムリーに伝えている「平井学区連合町内会ホームページ（以下HP）」を皆さんはじ覽になっていますか？今回は電子町内会委員会の坂口克明さん（元上町）と亀山尚一さん（市場）にお話を伺いました。

Q：このHPはいつから始ましたのですか？

A：（坂口さん）2002年に岡山市が電子町内会制度を導入して各町内会、連合町内会にHPの開設を勧めたことがきっかけです。当時のメンバーが慣れない中でも苦心して学習し、翌年2003年にスタートしました。来年20周年を迎えます。

Q：運動会や平井祭りなどの大きな行事のほかにもいろいろな記事を掲載していますが情報の収集はどのようにされていますか？

A：（亀山さん）現在約10名の委員がアンテナを立てて情報を持ち寄り、月一回の編集会議で担当を決めて記事と写真、最近は動画も活用してページを作成しています。電子町内会会长の那須和夫さん経由の情報から取材することもあります。以前は写真のようを集まって編集会議をしていましたが、コロナ禍で最近

時間で伝えていたところですが、HPをされていて良かったと思うことを教えてください。

A：（坂口さん）私は写真が趣味なのでトップページに掲載の花の写真を担当しています。趣味が活かしているところです。

（亀山さん）他の人は行けないところに行けたり、普段は話すことのない人と話せたりすることです。例えば今建設中の「新大橋」の工事現場を間近で取材できることとか、お一人暮らしの方への配食で感想を聞くことができたことなどです。（坂口さん）学区の方からたくさん情報を寄せていただけすると嬉しいです。また、ぜひHPをご覧ください。



平井学区連合町内会  
ホームページ QR コード



はZoomで行っています。

Q：HPをされていて良かったと思うことを教えてください。

A：（坂口さん）私は写真が趣味なのでトップページに掲載の花の写真を担当しています。趣味が活かしているところです。

## ある民生委員のつぶやき

▼私がサラリーマン生活を終え、故郷平井に帰ってきたのは2015年1月です。子ども達は既に独立、高齢ながら元気な父と、妻の三人暮らしが始まりました。早速、東山公民館のクラブ活動を調べて2つの伝統あるクラブに参加を決め、月6回各2時間の活動が始まりました。クラブのメンバーは気軽に付き合える楽しい人たちです。今年1月から定年退職後の8年目が始まり、雨の日も風の日も自転車を漕ぎ続け（笑）東山公民館に通っています。また妻と一緒に参加した「すずらん交流会」では、役員の方に勧められ、地域の人達を知る良い機会と思い役員（＝世話役）になりました。2018年10月から、「平井学区地域作り会議」の提案で「オレンジカフェひらい」が開設され、こちらの役員も兼任することとしました。

「すずらん交流会」は、今年3月で15年間の活動を閉じましたが、今後は「オレンジカフェひらい」を舞台に平井学区の認知症予防の一助となりたいと考えています。これまで「認知症予防」について、気にはなっているけどいつしょに活動することには戸惑いや不安がある方も、ぜひ「オレンジカフェひらい」に参加してみてください。気楽に話せて相談できる人がいますよ。

▼4月7日、厚生労働省は大人の代わりに介護や家事など家族の世話をする「ヤングケアラー」の初めての調査を発表しました。小学6年生の15人に1人が兄弟の見守りや家事、さらには入浴やトイレの世話など重い負担をしていることが報告されています。幼少期から家族の介護を始めた子ども達は、「家族の役に立ちたい、元気になつてもらいたい」という気持ちで介護にあたるため、精神的に負担を感じても、自分のつらい気持ちを抑え込んでしまう傾向があるそうです。小学生ケアラーは遅刻や早退も多く、学校生活や健康状態にも影響が出ています。自由記載には、「つらさをわかつてほしい、相談できる場所がほしい、頑張って世話をしていることを認めてほしい、ほめてほしい」などの声が寄せられていました。大人は子ども達の変化を見逃さないようアンテナを張ることが大切だと思います。私自身は老いてもアンテナが錆びつかないようしていただきたいです。

